



嶋田 廣子

【丸子中央病院の理念】 本院は、質の高い医療の提供を通じて地域のしあわせ創りに貢献します。

「心のオアシス」

丸子中央病院は丸子町のランドマークだ。そしてその9階のレストランからの眺めはとて素晴らしい。ペランダには手入れの行き届いたきれいなバラや、落ち着いた観葉植物の鉢植えが置かれている。窓辺の席からは、広々とした世間の雑踏を忘れるような、心の休まる空間が望める。私が看護師としてのスタートを切ったのは、諏訪市にある諏訪赤十字病院だった。40年も前のことである。勤務は外科病棟で、とにかく忙しく、時間外勤務が2時間、3時間に及ぶのは当たり前、という毎日であった。加えて3交代制で、日勤が終わって少し休み、次の深夜勤務に入ること多かった。若く、社会人になつたばかりなので、そんな毎日を送ることができたのだと思う。ずっと動き通しの深夜勤務ではあるが、東の空が明るくなってくると、患者さんの起床時間前にちょっとだけ静かになる瞬間がある。外もぼんやりと明るくなってきて、ただどまだ人々が動き出す前の静寂が迎りを包んでいる。記憶にある朝は、空気が澄んでいて、すがすがしさは真夏とも思えず

とても爽やかだった。つかの間の安寧のひと時だった。
管理者となった松本でも日が沈む時分の残照の中、見事な北アルプスのシルエット。そして信大では、遅くまで帰れずやつの思いで看護管理室の明かりを消した途端、暗かった窓一杯に広がる、松本市街地のキラキラした夜景。
すべては、ちょっと大変だなあ、と感じる毎日の中で、見出した心の中の小さな拠り所だと思う。小さく深呼吸して元気を取り戻し、また歩き出す。そんな私の思い出がある。



イラスト/森田 宏子

Contents

特集学ぶ
伝統・歴史に学び、未来へ継承する

特集学ぶ
繊維学部の来し方行く末
信州大学繊維学部部長 下坂誠氏へのインタビュー

連載第5回
丸子電鉄から読み解く―丸子の歴史
上田・丸子と、中南信を鉄道で結ぶ夢②

トピックス
Marukko TOPICS



てくれる人もいます。よく見ると愛嬌のある顔をしています。天蚕の繭は、幼虫の体の色と同じくきれいな緑色をしています。一口に蚕といいますが、家蚕・野蚕など多くの品種が存在しています。今ではあまり見なくなった蚕ですが、その研究は繊維学部で今後も続いていきます。

てくれる人もいます。よく見ると愛嬌のある顔をしています。天蚕の繭は、幼虫の体の色と同じくきれいな緑色をしています。一口に蚕といいますが、家蚕・野蚕など多くの品種が存在しています。今ではあまり見なくなった蚕ですが、その研究は繊維学部で今後も続いていきます。

伝統・歴史に学び、未来へ継承する



経 験は必ず役に立つ

信州大学繊維学部の前身は、明治43年開校の「上田蚕糸専門学校」です。当時、製糸業は国の基幹産業でした。現在も国立大学唯一の繊維学部として継続していることに誇りを持っています。



信州大学繊維学部 技術部技術職員
伊藤 隆氏
信州大学大学院農学研究科 修了後、信州大学繊維学部技術部 採用
繊維学部では農場における学生実習や地域の方たちとの連携の他、
研究補助や共通機器の管理などを行っています

養蚕、製糸は、かつて長野県内の多くの地域に潤いをもたらした基幹産業でした。今ではほとんどお目にかかれませんが、上田市にある信州大学繊維学部では桑畑や蚕を見ることができます。学生や有志の皆さんが実際に体験できる環境を大学が整えているからです。信州大学繊維学部 技術部技術職員の伊藤 隆氏に養蚕や製糸の実習を続けている理由についてお聞きしました。



蚕

というと、白い蚕を思い出す方が多いと思います。この蚕は「家蚕(かさん)」といい、人間により家畜化された生き物です。家蚕は成虫して蛾になっても飛べないように品種改良されています。家蚕の品種には上田で作りに出されたといわれている「小石丸」、少し黄色がかつた繭になる「青白」などがあります。当学部ではこの2品種の他に「春嶺鐘月」という蚕を飼育し、学生および地域の方たちと養蚕体験実習を行っています。

また家蚕と異なり野生で生活している蚕を「野蚕」といい、きれいな緑色をした野蚕の種類の一つである「天蚕」も繊維学部で飼育しています。応用生物科学科の梶浦善太教授は、日本全国を回って野蚕を集めています。人によってその姿が「グロテスク」と感じる人もいますが、逆に「かわいい」と感じ

「オンラインワンの学部なので、常にチャレンジし続けたい」



信州大学繊維学部長
下坂 誠氏
1984年 京都大学大学院博士課程(農学研究科)修了、
1986年 信州大学繊維学部助手、
1993年 同助教授、
2004年 同教授、

2015年 繊維学部長 現在に至る

専門：応用微生物学



繊維学部の象徴。登録有形文化財である講堂

1 910年に「上田蚕糸専門学校」として端を発した信州大学繊維学部は、100年を超える歴史を有しています。その間、諸先輩たちは伝統を守るだけでなく新しいものを産み出す「変革」と「実践」を積み重ねてこられました。私たちは、その過程を重視しています。学部の同窓会である「千曲会」を通して、毎年卒業式に50年前に卒業した先輩諸氏を招待する取り組みは、歴史の重みが産み出す新たな発展という学部の姿を意識したものです。

今の日本人にとっては「あつて当たり前」ですが、「衣食住」という言葉のとおり、衣服は無くしてはならないものです。

世界の人口増加を考えた時、食糧問題はよく取り上げられますが、衣類の問題はあまり意識されません。世界のすべての人々に衣服を供給することは重要なことです。今後の人口増加と限られた資源の持続活用を考えると、衣服を分子レベルまで戻して再生するリサイクル技術の開発がますます重要となってくるでしょう。

繊維と言っても今は糸や衣服だけではなく、繊維の世界は大きな広がりを見せています。例えば、自動車や航空機のボディには、軽くて強い炭素繊維(カーボンファイバー)が使われています。通信に使われる光ファイバーは光を通す繊維の集合体ですし、人工臓器にも繊維の素材が使

われています。建築分野でも、鉄筋の代わりに繊維を混ぜた軽くて丈夫で腐食しないコンクリートが使われています。

また、編機や織機の技術は、今やロボットにも活かされています。私たちの神経や筋肉は繊維からできています。この仕組みを採り入れることで、ヒトの動きをまねたヒトに優しいロボットが開発され医療や福祉の現場で使われています。

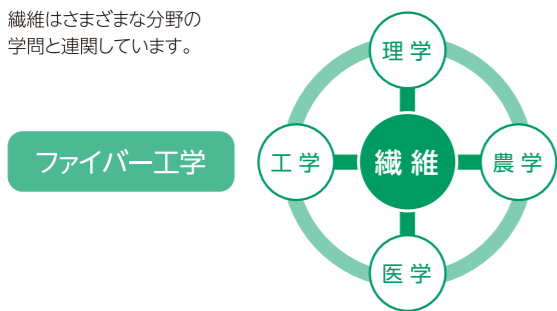
ちなみに私の専門は応用微生物学です。カニ殻に含まれる高分子キチンを強力に分解する新属新種の細菌を上田城の堀水から発見しました。地球上でセルロースに次いで大量に存在するキチンの有効利用に関する研究を行っています。

このように繊維は、工学、農学、理学、医学の分野と密接なつながりを持っています。繊維学部で行っている研究は、

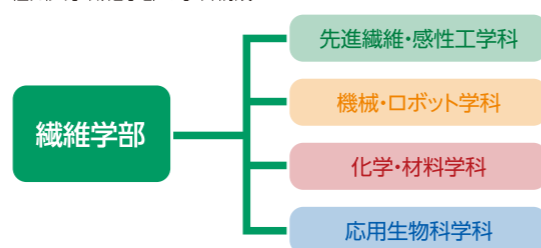
幅広い学際分野を包含していると言ってもよいでしょう。

現在、繊維の素材と技術は、いろいろな産業のものづくりに応用され注目されています。しかし、かつて繊維は斜陽産業と捉えられ、大学の繊維学部にも危機的な状況がありました。他大学にあった「繊維」の名前がなくなった学部や学科は次々となくなり、当学部でも「繊維」の名前も残すかどうか議論となったほどです。しかし、「繊維」の名前を残すことに尽力いただいた先輩たちのおかげで、現在、わが国唯一の繊維学部として新たな展開を見せています。オンラインワンの学部なので、「変革」と「実践」を旨とし、今後も新たなことにチャレンジし続けたいと考えています。

繊維はさまざまな分野の学問と関連しています。



信州大学繊維学部の学科構成



丸子中央病院 創立60周年記念コンサート 700名様を無料でご招待!

昭和34年に丸山医院として開業して以来、地域と共に60年間歩んで参りました。地域のみなさんに感謝の気持ちを込めて記念コンサートへご招待します。

■日時：11月17日(日)【事前申し込み制】

■会場：丸子文化会館セレスホール(大ホール)

■開場：13:00 開演：14:00～16:30(終演予定)

■出演：樋口ゆみ(ヴァイオリン)・築田佳奈(ピアノ)・角田和弘(テノール)・白石佐和子(ソプラノ)
澤崎一了(テノール)・村松恒矢(バリトン)・田中大揮(バス)・伊藤亞希子(ピアノ)



●お申込み方法

■電話：電話受付「丸子中央病院創立60周年記念コンサート」事務局

0268-25-2510 (受付時間:平日9:00～18:00)

■WEB：下記URLまたはQRコードにアクセスいただき、お申込みをお願いいたします。

<https://maruko-hp-60th.com>



- ※お一人様につき最大5名様までお申込みいただけます。
- ※お席は全席指定とさせていただきます。(座席の位置は選べませんのでご了承ください)
- ※お申込みをキャンセルする場合は、お手数ですが電話(0268-25-2510)、またはメール(info@maruko-hp-60th.com)までご連絡をお願いいたします。メールにてご連絡をいただく場合は、お申込者様の情報(お名前・電話番号・住所)を必ずご記載の上、送信をお願いいたします。
- ※車椅子席には限りがございますのでご希望に添えない場合もございます。あらかじめご了承ください。
- ※チケットは随時発行させていただきますが、もし11月8日までにお手元に届かない場合はお手数ですが電話、またはメールにてお問い合わせください。
- ※当日受付でチケットを確認いたしますので必ずチケットをお持ちください。
- ※チケットの不正転売は法律で禁止されておりますのでおやめください。
- ※お申し込みは定員に達し次第終了とさせていただきます。
- ※未就学児の入場はご遠慮ください。

本件に関するお問い合わせ

電話：0268-25-2510(丸子中央病院創立60周年コンサート事務局 受付時間：平日9:00～18:00) メール:info@maruko-hp-60th.com

●発行
特定医療法人 丸山会 丸子中央病院
経営企画課 広報係 Marukko(まるっこ)制作委員会
〒386-0405 長野県上田市丸中丸子1771-1

●編集・進行
北澤 淳一(丸子中央病院)
安藤 あすか(丸子中央病院)

●アートディレクター
五木田 忠之(MOKUBA.CO.,LTD.)

●デザイン
MOKUBA.CO.,LTD.

●お問い合わせは…
丸子中央病院 経営企画課 広報係
Marukko(まるっこ)制作委員会まで
TEL.0268-42-1111
月曜日から金曜日、10時～17時(祝日・休日・年末年始を除く)



きれいな葉の色をした
可愛らしい天蚕
てんさん

初めてみる天蚕の美しさに感動しました。小学生の時に蚕の飼育実習を行ったことを思い出しました。白い幼虫を育てることに始まり、繭になったところでお湯で煮て糸を紡ぐ作業を経験したのが印象的です。当時先生からは天然の蚕の繭は貴重で緑色をしているという話を聞いていました。繊維にゆかりあるこの地で、天蚕が育てられ守り受け継がれていくことを願っています。
(安藤あすか)

編集後記

かつて丸子町(現・上田市)は製糸産業が盛んで、物流旅客両面で人の動きの多いところでした。このため、長野県内でも早い時期に鉄道が敷設された場所です。丸子の鉄道の歴史を振り返ることで、丸子の歴史をさかのぼります。

(連載第5回)
上田・丸子と、
中南信を鉄道で
結ぶ夢②

夢をかなえてくれる
鉄道駅を誘致した
「オール長野」の思い

明治中頃には官民間問わず様々な鉄道計画が持ち上がりました。日本でもかなり早い時期に開通した信越線は、とりわけ中南信の人々にとって憧れであり、「信越線と中南信をつなぐ電車」の計画は実現した夢でした。なぜなら、岡谷・諏訪は蚕糸の大生産地でありながら、

それを運搬するのにとても苦勞していたからです。生糸製品は、荷馬車で運んで和田宿で一泊、丸子を経由して信越線の駅(当初は小諸駅、後に田中駅)まで運ばなければなりませんでした。余談ですが、丸子の雄・下村亀三郎が器械製糸に着目したのも、丸子を通る物流を見て、より信越線に近い丸子であれば条件がずっと良いと考えたから、と言われています。そんな状況であれば「和田宿から最短距離で信越線とぶつかる場所に駅を作ってほしい」と人々が思うのは当然のことです。その最短距離の場所こそが大屋だったのです。



大屋駅前の石碑

その経緯が今も大屋駅前に残る石碑に記されています(石碑は漢文で書かれています。書き下し文は『年表で見る大屋の歴史』より)。「南北諏訪・伊那・松本・埴科・高井諸方の田中若しくは上田由り東西に赴かんと欲する者、必此の地に於て、然る後に各指す所を定む」。

埴科や高井という北信の地名もあるのは驚きですが、この場所が交通の要衝だったことの証でしょう。地元の人だけでなく、長野県全体の熱意により、大屋停車場は「日本初の請願駅(住民の請願によりできた駅)として誕生したのです。大屋駅は生糸輸送の歴史的意義が評価され、今回特集で取り上げた信州大学繊維学部講堂とともに平成19年に経済産業省の近代化産業遺産に認定されています。



現在の大屋駅